

# 東京タワーアンテナモニュメント

～ 3.11 東日本大震災から東京タワーアンテナ支柱を守った物語～

ミハル通信株式会社

## はじめに

2023年4月1日、ミハル通信株式会社は、古河C&B株式会社（以下、FCB）より全事業を譲受いたしました。

FCBは、東京タワーやスカイツリーをはじめ、全国のデジタルテレビ放送とFM放送の送信アンテナや、無線通信用のパラボラアンテナ、導波管など、電波を扱う情報伝送インフラに用いられる製品群を半世紀以上に亘り提供してきたメーカーです。

今回、ミハル通信はこのFCB事業継承の証として、FCB横浜測定所にあった「東京タワーアンテナモニュメント」を鎌倉本社の敷地内に移設しました（写真1）。



写真1 ミハル通信 鎌倉本社内に移設された「東京タワーアンテナモニュメント」

## 1. 東京タワーアンテナモニュメントは、東日本大震災で変形したアンテナ支柱

2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。この時、その揺れによる影響で東京タワーのアンテナ

支柱が変形してしまったのです。当時のニュースでも話題になり、YouTubeなどでもその映像が公開されました。地震の揺れによって生じた「むちふり現象」により加速度が倍加され、塔頂部のアンテナ支柱が変形したのです（写真2）。この変形したアンテナ支柱の一部が、この東京タワーアンテナモニュメントです。

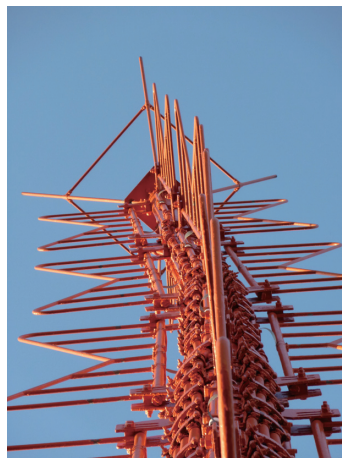


写真2 揺れにより変形したアンテナ支柱の一部

## 2. 3.11地震発生時に、偶然にもFCBが東京タワーの点検作業を行っていた

地震が発生した3月11日14:46、偶然にもFCBが東京タワーの定期点検を行っていました。地震発生後より、FCBによる不眠不休の復旧保全作業が始まりました。

地震発生後、テレビ放送を守るためFCBは総出で復旧作業にあたります。実は、その時、FCBでは年に一度の慰安会の予定で、乾杯の直前だったそうです。多くの社員は横浜の宴会場に集まっていたそうですが、地震によりそれどころではなくなりました。

### 3. 現場作業員の不眠不休の復旧活動が始まる

2011年7月24日にはアナログ放送停波を控えていましたが、まだアナログ放送を受信されている家庭も多く、災害情報を伝える重要なインフラであるテレビを止めるわけにはいかない、その強い思いでFCB及び関連会社の作業員は、不眠不休で東京タワーアンテナ支柱の復旧作業にあたります（写真3）。



写真3 深夜、余震のある中での復旧作業

#### 【時系列】

##### 3月11日

- 14:46 地震発生
- 15:00 点検作業開始、打合せ

##### 3月12日

- 0:00 1回目の塔頂部曲がり点検実施（余震の中、鉄塔作業）
- 5:30 2回目の塔頂部曲がり点検実施
- 6:30 東京タワーを保有する日本電波塔関係者、関係各社とFCBで対応を協議
- 11:30 アンテナ支柱を保全する方針決定  
変形したアンテナ支柱を落下しないように補強し、7月24日のアナログ停波まで維持する方針を決め、作業を開始した

アンテナ支柱の一部を保全して、アナログ停波まで落下ないように補強する方針がきまり、部材を集め、作業を行い、地震発生後から5日後の3月16日には補強作業が完了しました。

この時のFCBの献身的な作業が評価され、1年後に撤去された東京タワーの変形したアンテナ支柱の一部がFCBに寄贈され、2012年3月に当時のFCB大和本社敷地内に設置されました。その後、移転に伴い横浜測定所に移設されました。

「変形したアンテナ支柱」は東京タワーにも設置され、またNHK放送博物館にも設置されています。写真4は東京タワーに設置されたモニュメント「333mの記憶」です。モニュメントの土台部分のプレート（写真5）が設置されており、協力に「古河C&B」と社名も刻まれています。



写真4 東京タワーに設置されたモニュメント

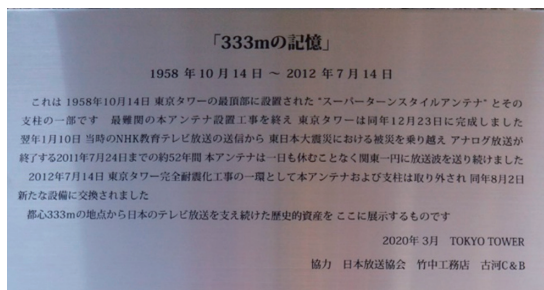


写真5 プレート「333mの記憶」

### 4. 参考資料 年表

- 1953年 テレビ放送開始
- 1955年 日本初のケーブルテレビが群馬県伊香保温泉に誕生。ミハル通信の前身の三春通信機器(株)設立
- 1958年 東京タワー完成 古河電工はNHK向けアンテナを納入。これより古河電工は東京タワーのアンテナを建設（写真6は1958年に増上寺の境内にてアンテナを組み立てる様子）
- 1992年 古河電工の無線部門を古河C&B(株) (FCB)として設立
- 1995年 FCBが東京MXテレビ用アンテナを東京タワーに建設



アンテナ調整現場のゲイン塔頂部（ボニル押込部）

- 写真6 1958年に増上寺の境内にてアンテナを組み立てる様子
- 1998年 FCBが日本初のデジタル放送実験用アンテナを東京タワーに納入
  - 2000年 BSデジタル放送開始
  - 2003年 FCBが日本初のデジタル実放送用アンテナを東京タワーに納入
  - 関東・中京・近畿の三大都市圏で地上デジタル放送開始
  - 2011年3月 東日本大震災発生
  - 2011年7月 アナログ放送終了（東日本の地域を除く）
  - 2012年3月 アナログ放送完全終了。

## さいごに

放送空中線、無線通信製品、サービス設計、製造、施工等、テレビの草創期より実績のあるFCBの全事業を譲受したミハル通信は、現在の自社事業との統合により、放送局向けのビジネスを未来に向けてさらに展開していきます。

「東京タワーアンテナモニュメント」は、東日本大震災の被害から東京タワーアンテナ支柱を守ったFCBの意志を継ぐ、その事業継承の証でもあります。



写真7

ミハル通信の中村社長（右）と篠田執行役員常務（左）